

第15回創造性教育研究会 報告

○日時：2013年4月6日（土）

○参加者：弓野 憲一先生，弓野 スミ子さん，塩田 真吾先生，塩田 清香さん，柿沼さん，酒井
（報告者）

○場所：弓野先生別荘（諏訪）

○報告：

◆議題1 具体的な実践についての検討

- ・意見の受け取り方もほめる

<理科> ろうそくの燃え方

- ・従来の理科教育では変数を1つに絞っている→創造性教育では，複数の変数を取り上げる。
- ・導入をざっくりと聞く。一つの問題提起に対して，多くの可能性を児童に出させる。
その中で，子どもに問題の多さを意識させつつ，その一部を授業で取り扱う。（視点が多く出てくる）

導入：火事を消すにはどうすればよいか。（発散的思考をみる）

ものを燃やす。

発展：授業内容を終えた後に，いろんな変数を見せ，実験パターンを考えさせる。

（例：長く燃やすには？ 大きく燃やすには？ 明るく燃やすには？ より熱く燃やすには？）

<歴史> 縄文時代～

従来の歴史教育では縄文時代から弥生時代への移り変わりが瞬時に行われている。

→創造性教育では，その移り変わりに着目する。

導入：土器などのヒントから，いろいろと想像させる。

まとめ：時代と時代の移り変わりのドラマを作成しよう。

- ・なぜ，時代が変わったのかということをいろんな視点から考えていく。
- ・時代の移り変わりに関しては，「家族の一日」をイメージさせる。

→それぞれの時代で家族がどのように生活しているかのイメージを導入部分にあてる。

<国語> 「声に出して伝え合おう」

- ・読解した文章をアウトプットに使用する
- ・漢字を作ってみよう。
- ・国語作品のバックグラウンドを把握することで，作品を広く捉えられる。
- ・詩に関しては，作者の意図を児童に問い，それに関連した作者のバックグラウンドを与える。
- ・文章のどこに関連するのかとういことを個々と個々につなぎ合わせる大切である。

<算数> 線対称・点对称, 文字と式,

- ・導入部分としては, 問題作成
- ・発展: 文章問題を考える
- ・第三者に対して言語活動を通じて, 表現を行う能力が大切。

→やったことを第三者に伝える→推敲する

- ・グループ活動における創造性の伸ばし方→解答を出した後のまとめ方が重要である。
- ・子どももお互いに褒めることも重要である。
- ・教室に貼れる“褒め言葉”を本に掲載する。
- ・褒める声がクラスの中にあるのかどうか。

◆議題2 質問紙の検討

- ・統制群は千葉県内の5年生を対象とする。
- ・2回目のアンケートについては6月の中旬に実施する。
- ・2回目の活動を測る質問項目は「態度を測る質問項目」から抜粋して, 使用する。
- ・「自尊感情を測る質問」1「他の子どもと同じくらい大切な子ども」→「なくてはならない存在」
- ・「創造性を測る質問項目」は3回とも同じ問題を実施する。
- ・評価項目の作成が必要→先行研究に依った評価項目を使用する。

☆教員の創造性と児童の創造性の相関をみる